一　今から約千年前に書かれた「」

を（１）（２）のように読みましょう。

ゴール　古典を読んで、むかしの人の見方や考え方にふれてみよう。

（１）題名から口語までを読みましょう。

（２）題名から本文までを、繰り返して

読みましょう。

三　「枕草子」の口語訳を調べて、二で書いたあなたの考えと比しましょう。

読

春はあけぼの。白くなりゆくすこしあかりて、だちたる雲の細くたなびきたる。

夏は夜。月のころはさらなり、やみもな、の多く飛びちがたる。また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くもかし。雨など降るもかし。

【口語】

春は夜明けがよい。だんだん白んでいく山際の空がほのかに明るくなって、むらさき色の雲が細くたなびいているのがよい。

夏は夜がすばらしい。月の出ているころは言うまでもなく、闇夜でもやはり、たくさんの蛍が入り乱れて飛んでいるのはいいものだ。また、ほんの一つ二つだけ、かすかな光を放って飛んでいくのも風情がある。雨などが降るのも風情がある。

１７



むかしの人の考えにふれてみよう

ふりかえり

・古典の文をすらすら読むことができた。　　　　　　　　　　　　（　　　）

・自分の考えを、まとめることができた。　　　　　　　　　　　　　（　　　）

・むかしの人と自分の考えを比べて考えることができた。　　　（　　　）

二

（１）あなた自身が、それぞれの季節でよいと思

う時間帯とその理由を書きましょう。

（２）清少納言が枕草子で書いていることと、

あなたの考えを比べて思ったことを書きま

しょう。

春は、【　　　　　　　　】がよい。

夏は、【　　　　　　　　】がよい。

　読・17　古典を読み、昔の人の見方や考え方を想像する。

口語訳とは、現代語でやさしく

書きかえた文章のことです。

年 　組





一　今から約千年前に書かれた「」

を（１）（２）のように読みましょう。

ゴール　古典を読んで、むかしの人の見方や考え方にふれてみよう。

（１）題名から口語までを読みましょう。

（２）題名から本文までを、繰り返して

読みましょう。

三　「枕草子」の口語訳を調べて、二で書いたあなたの考えと比しましょう。

読

春はあけぼの。白くなりゆくすこしあかりて、だちたる雲の細くたなびきたる。

夏は夜。月のころはさらなり、やみもな、の多く飛びちがたる。また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くもかし。雨など降るもかし。

【口語】

春は夜明けがよい。だんだん白んでいく山際の空がほのかに明るくなって、むらさき色の雲が細くたなびいているのがよい。

夏は夜がすばらしい。月の出ているころは言うまでもなく、闇夜でもやはり、たくさんの蛍が入り乱れて飛んでいるのはいいものだ。また、ほんの一つ二つだけ、かすかな光を放って飛んでいくのも風情がある。雨などが降るのも風情がある。

１７



むかしの人の考えにふれてみよう

ふりかえり

・古典の文をすらすら読むことができた。　　　　　　　　　　　　（　　　）

・自分の考えを、まとめることができた。　　　　　　　　　　　　　（　　　）

・むかしの人と自分の考えを比べて考えることができた。　　　（　　　）

　清少納言は、季節によって変わる自然のすば

すばらしさに注目して生活していると思った。

春でよいと思う時間帯が、清少納言は朝、

　私は夕方とちがっていておもしろいと思った。

　　タンポポのわた毛が風に吹かれてまいあがる

時、夕日にすけてきらきらとかがやいてみえる

から。

　　まっ暗な夜空に打ち上げられた花火から、

　色とりどりの光がはなたれ、とてもきれい

　だから。

二

（１）あなた自身が、それぞれの季節でよいと思

う時間帯とその理由を書きましょう。

（２）清少納言が枕草子で書いていることと、

あなたの考えを比べて思ったことを書きま

しょう。

春は、【　　　夕方　　　　】がよい。

夏は、【　　夜　　　　　】がよい。

　読・17　古典を読み、昔の人の見方や考え方を想像する。

口語訳とは、現代語でやさしく

書きかえた文章のことです。

解　答　例





